

大阪医科薬科大学
看護学教育カリキュラム評価

2023 年度 報告書

大阪医科薬科大学
看護学部・看護学研究科
カリキュラム評価委員会

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価 2023 年度 報告書

目次

第 1 章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定・・・・・・・・・・1

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）
2. カリキュラム評価委員会の目的と位置付け
3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

第 2 章 課程レベル（学部・研究科レベル）のカリキュラム評価の結果および総括・・・・・・・・5

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果・総括
2. 課程レベル（研究科レベル）のカリキュラム評価結果・総括

資料

1. 大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会運営要領・・・・・・・・・・6
2. 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科カリキュラム評価委員会規定・・・・・・・・8
3. 2023 年度 大阪医科薬科大学カリキュラム評価委員会名簿・・・・・・・・・・10
4. カリキュラム評価委員会開催状況・・・・・・・・・・11
5. 2023 年度 大阪医科薬科大学看護学部・看護学研究科 課程レベルのカリキュラム評価
委員評価一覧・・・・・・・・・・12
6. 2023 年度使用の資料一覧・・・・・・・・・・26

第1章 大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラムの評価方法の策定

1. 大阪医科薬科大学のアセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）

本学の理念は、建学の精神及び学是（至誠仁術）に基づき、国際的視野に立った教育、研究或いは良質な医療の実践をとおして、人間性豊かで創造性に富み人類の福祉と文化の発展に貢献する医療人の育成である（学則第1条）。また、本学の目的は、前述した理念に基づき、豊かな人間性と国際的視野を備えた、1) 人類共通の課題である健康の維持増進並びに疾病の予防と克服及び苦痛の軽減に努める人材、2) 変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、3) 地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探求心を持って活躍する人材を育成することである（学則第2条）。

1) 機関レベル（大学レベル）

大阪医科薬科大学では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、各学部で定めたアドミッションポリシー（入学者受入の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）、ディプロマポリシー（学位授与の方針）を踏まえた指標に基づき学生の学修成果を測定・評価します。評価は、学生の入学時から卒業までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行います。

アセスメントポリシーに基づく点検評価によって「教学マネジメント」を確立させ、不断の教育改善に取り組みます。

【評価の目的】

学修成果を可視化することにより、学修支援及び教育課程の改善等を恒常的に行います。

- ・学位授与の方針に掲げられている資質と能力の修得状況を把握するために、評価を実施します（教育課程レベルにおける学修成果の可視化）。
- ・各科目において示された学習目標の達成状況を把握するために、評価を実施します（科目レベルにおける学修成果の可視化）。

2) 看護学部看護学科アセスメントプラン（表1）

看護学部では、教育の成果を可視化し、教育改善を恒常的に実施する目的で、3つのポリシーに即した評価指標に基づいて学生の学習成果を測定・評価します。評価は、学生の入学時から卒業時までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行います。

アセスメントポリシーを踏まえた「教学マネジメント」を確立させ、不断の教育改善に取り組みます。

3) 看護学研究科アセスメントポリシー（表2・3）

看護学研究科においても、教育の成果を可視化し、教育皆瀬を恒常的に実施する目的でアセスメントポリシーに基づいて学習成果を測定・評価します。評価は、入学時から修了時までを視野にいれ、教育課程レベル、科目レベルにおいて、多面的に行います。

2. カリキュラム評価委員会の目的と位置付け

本委員会は、定期的な自己点検・評価の取組を踏まえた本学における自主的・自律的な質保証への取組（内部質保証）のひとつとして2019年4月1日に設置された。2023年度からは、看護学部と看護学研究科のカリキュラム評価を、本委員会が実施することとなった。また、2023年度

より、教育研究内部質保証評価会議が設置され、外部委員は教育研究内部質保証評価会議の構成員となった。

本委員会の目的は、本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり、委員に複数の学外有識者も含め多角的に評価を行うことで、自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を目指すものである。

本委員会は、「課程レベル（学部レベル・研究科レベル）の PDCA サイクルをモニタリングする」という位置付けにある。PDCA サイクルとは、目標設定とその実現のためのプロセスを設計する Plan（企画・立案）、計画の実施とその効果を測定する Do（実施）、結果を分析し評価する Check（評価）、プロセスの継続改善に必要な措置を行う Action（検証・改善）の 4 段階を繰り返すことによって、継続的な改善を目指すマネジメントサイクルのひとつである。4 段階のステップとスパイラルを積み重ねるプロセスをモニタリングすることによって、より質の高い教育活動が可能となる。

PDCA サイクルのモニタリングの継続により、①教育目標の達成状況を把握することができる、②達成されていない教育目標についてその原因を探ることができる、③原因は把握から改善の道筋を明確にすることができる、④改善がどこまで進んだかを追跡することができる。

表 1. 大阪医科薬科大学 看護学部看護学科アセスメントプラン

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	・入学試験 ・入学時調査 ・入試制度評価	・修得単位数 ・GPA ・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査） ・教員によるカリキュラム評価 ・進級率、休学率、退学率 ・保健師、助産師コース希望者数 ・外部試験結果（国家試験模試等） ・正課外活動ポートフォリオ ・入試制度別成績、態度	・卒業要件：修得単位数、卒業演習評価 ・資格取得：国家試験合格率 ・GPA ・休学率、退学率 ・就職率、進学率 ・学勢調査（カリキュラム評価・学修行動・DP 到達度調査） ・卒業時到達目標の自己評価 ・正課外活動ポートフォリオ ・入試制度別成績、態度
科目レベル		・各科目評価（講義・演習・実習） ・実習ポートフォリオ ・授業評価（学生） ・授業改善報告書（教員） ・ピアレビュー報告書（授業見学）	・各科目成績（講義・演習・実習）

2021 年 4 月 1 日現在

表 2. 大阪医科薬科大学 看護学研究科博士前期課程アセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (研究科レベル)	・入学試験 ・入試制度評価	・修得単位数 ・学勢調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・高度実践コース希望者数 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数(全体・領域) ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件:修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学勢調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査 ・資格取得:高度実践看護師の教育課程修了者、合格率
科目レベル		・成績評価 ・授業評価(学生)	・成績評価

表 3. 大阪医科薬科大学 看護学研究科博士後期課程アセスメントポリシー

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (研究科レベル)	・入学試験 ・入試制度評価	・修得単位数 ・学勢調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数(全体・領域) ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件:修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学勢調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査
科目レベル		・成績評価 ・授業評価(学生)	・成績評価

本委員会の看護学部カリキュラム評価委員会運営要領は、資料 1、看護学研究科カリキュラム評価委員会規定は、資料 2、2023 年度カリキュラム評価委員名簿は、資料 3 に示す。

3. 看護学教育カリキュラムの評価方法

1) 評価項目および評価基準

カリキュラム評価の方法には、様々な手法がある。2023 年度カリキュラム評価委員会では、学部と大学院を合わせて評価することや外部委員による評価は上部委員会担当となったため、前年度までの評価手法を全面的に見直した。具体的には、学部と大学院同様の評価手法とすること、なるべく評価手法がシンプルで見やすいこと、経年使用や比較がしやすいことなどをポイントに検討した。

その結果、他大学で活用されている「カリキュラム・アセスメント・チェックリスト（以下リスト）」を参考に、本学独自のリストを作成し使用することとした。このリストは、「看護学部アセスメントプラン」に基づきカリキュラムが機能しているかを検証するもので、「いつ」「誰が」「どのように」カリキュラムの評価を行うのか、評価結果を「どう」活用するのかを一覧表にまとめたものである。

構成は、課程レベル、科目レベル別に AP（アドミッションポリシー）、CP（カリキュラムポリシー）、DP（ディプロマポリシー）の種類に分け、評価基準は前年度まで使用した 3 段階の基準〔A：十分に整備されている（PDCA がなされている）、B：おおむね整備されている（一部実施に向けた検討がなされている）、C：大幅な見直し、改善が必要（PDCA がなされていない）〕を使用した。大学院も、修士課程・博士課程別に「看護学研究科アセスメントポリシー」に基づき、同様の手法で評価した。また、根拠資料は毎年活用できるよう、学部、研究科ごとに資料一覧を作成した。

評価方法は、担当委員が実施時期から教学 IR 提供までの各項目を根拠資料に基づいて入力し、各委員が評価を行った。最終的に委員会で委員会としての評価結果をまとめた。学生委員には、リスト及び結果の概要を説明し、B 以下の評価項目の具体的な課題について意見を収集し、評価結果をまとめた。各委員による評価は、資料 5 のとおりである。

なお、2023 年度は、本委員会は資料 4 のとおり、5 回開催した（第 1 回カリキュラム評価委員会：2023 年 8 月 7 日、第 2 回カリキュラム評価委員会：2023 年 9 月 14 日、第 3 回カリキュラム評価委員会：2022 年 11 月 14 日、第 4 回カリキュラム評価委員会：2022 年 12 月 4 日、第 5 回カリキュラム評価委員会：2022 年 12 月 25 日）。いずれも委員の過半数の出席があり、定足数を満たしていた。

2) 評価結果のフィードバック

本委員会の評価結果は、運営要領の第 5 条 4 に基づき、委員長が本学看護学部長に報告した。また、本学看護学部教授会にて委員長は報告を行い、本学看護学部教職員と評価結果の共有がなされた。さらに、評価結果を広く共有すべく、報告書は本学ホームページに掲載した。

第2章 課程レベル（学部レベル・研究科レベル）のカリキュラム評価の結果および総括

1. 課程レベル（学部レベル）のカリキュラム評価結果

各委員より集約した評価は資料5のとおりである。根拠資料一覧は資料6に示した。

アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、あらかじめアセスメントプランで定めた基準に照らし、履修の手引き、学生生活ガイド、看護学部年報、教育年報、学生調査報告書等のエビデンス（2022年度資料）をもとに学修成果についての検証を行った。

新型コロナウイルス感染症拡大3年目の影響を受けてはいたが、拡大当初に比べると平時に戻りつつある中、概ね設定された項目について、教育の質を担保できていると判断できる。

一方、課題としては、入学時調査における新入生の出身校評定分析があげられ、今後評価が必要である。学生関連では、正課外活動ポートフォリオの活用があげられ、目的や、年度末に見直すことの周知徹底、その際ボランティア情報を提供する必要性と効果確認の必要性があげられた。教員側の課題としては、ティーチングポートフォリオの活用があげられた。2022年度は現在の方法を導入してから1年目であったが、今後定期的な活用や効果確認が必要である。

次年度に向けても、評価項目並びに測定基準の見直しとともに、適切なPDCAサイクルの運用など点検・評価を通じた不断の改善に取り組んでいく必要がある。

2. 課程レベル（研究科レベル）のカリキュラム評価結果

各委員より集約した評価は資料5のとおりである。根拠資料一覧は資料6に示した。

アドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、あらかじめアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、教育要項、看護学研究科年報、学生調査報告書等のエビデンス（2022年度資料）をもとに学修成果についての検証を行った。

大学院での検証結果については、修士・博士課程とも設定した基準を満たしており、目標を達成していると判断できる。本学研究科は看護学研究科1研究科のみで、定員も前期課程8名、後期課程3名と少人数であり、一人ひとりに行き届いた教育・研究環境が提供できていることが要因であると判断している。

課題としては、前期課程・後期課程共に退学者がおり、学生個々の要因に加えて、学生自身が入学前のイメージと入学後の現実とのギャップを調整し学修できるような継続的な支援の必要性がある。また、研究助成金の獲得状況の低さについては、応募がなかったため、特に前期課程では、研究費獲得のメリットや具体的な申請方法などの情報提供や指導を充実していくこと、また両課程において、FD等を活用していくことの必要性があげられた。

今後も研究科の充実、発展のために、アセスメントを充実させ、本研究科の教育・研究内容について、改革改善に活かせるよう取り組んでいく必要がある。

資料

資料 1 大阪医科薬科大学 看護学部カリキュラム評価委員会運営要領

(平成 31 年 4 月 1 日施行)

(目 的)

第 1 条 この運営要領は、大阪医科薬科大学教育研究内部質保証評価会議規程第 5 条に基づき、大阪医科薬科大学看護学部、大阪医科薬科大学看護学部カリキュラム評価委員会（以下、「委員会」という。）を置き、その必要な事項を定める。

(設 置)

第 2 条 大阪医科薬科大学の看護学教育カリキュラムについて継続的な評価をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ看護学部教育水準の更なる向上を図るものとする。

(組 織)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 看護学部教員 3 名
- (2) 医学部教員 1 名
- (3) 薬学部教員 1 名
- (4) 他大学看護系教員 1 名
- (5) 自治体、商工会議所、企業等からの委員 1 名
- (6) 看護学事務課 1 名
- (7) 看護学部学生（第 2 学年生代表 1 名、第 4 学年生代表 1 名）

2 委員は、学部長の推薦に基づき、看護学部教授会の議を得て学部長が委嘱する。

(審議事項)

第 4 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 看護学部の教育カリキュラムの評価に関すること。
- (2) その他、カリキュラムに関すること。
- (3) その他、学部長の諮問する事項

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、看護学部教員からの互選により選出する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 委員長は、委員会において審議した結果を看護学部長に報告する。

(任 期)

第 6 条 委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、看護学部学生委員の任期は 1 年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第7条 委員会は、原則として年に2回以上開催する。

2 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席させることができる。

(改 廃)

第8条 この運営要領の改廃は、委員会で発議し、看護学部教授会の議を経て、看護学部長が行う。

附 則

この運営要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和4年5月13日から施行する。

附 則

この改正は、令和4年9月22日から施行する。

資料 2 大阪医科薬科大学 大学院看護学研究科カリキュラム評価委員会規程

(令和元年10月15日施行)

(目 的)

第1条 この規程は、大阪医科薬科大学大学院看護学研究科（以下、「本研究科」という。）に、大阪医科薬科大学大学院看護学研究科カリキュラム評価委員会（以下、「委員会」という。）を置くために必要な事項を定める。

(設 置)

第2条 本研究科教育カリキュラムとシラバス（教育要項）について継続的な評価と改善をするために委員会を置く。また、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させ本研究科教育水準の更なる向上を図るものとする。

(組 織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 本研究科教員2名
- (2) 医学研究科教員1名
- (3) 他大学院看護系教員1名
- (4) 自治体、商工会議所、企業等からの委員1名
- (5) 看護学事務課事務員1名
- (6) 本研究科学生（博士前期課程代表1名、博士後期課程代表1名）

2 委員は、研究科長の推薦に基づき、本研究科教授会の議を経て研究科長が委嘱する。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 本研究科の教育カリキュラムの評価、改善に関すること。
- (2) シラバスの記載内容の評価、改善に関すること。
- (3) その他、カリキュラム、シラバスに関すること。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、本研究科教員からの互選により選出する。

3 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

4 委員長は、委員会において審議した結果を本研究科長に報告するものとする。

(任 期)

第6条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、本研究科学生委員の任期は1年とする。また、委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第7条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことはできない。

(委員以外の者の出席)

第8条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、学務部看護学事務課が行う。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

(改 廃)

第11条 この規程の改廃は、委員会及び本研究科教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、令和元年10月15日から施行する。

附 則

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、令和3年11月18日から施行する。

資料 3 カリキュラム評価委員会名簿

任期期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

役職	所属	職位	氏名
委員長	実践支援看護学領域 看護教育学分野	教授	池西 悦子
委員	地域家族支援看護学領域 母性看護学・助産学分野	教授	佐々木 綾子
委員	療養生活支援看護学領域 老年看護学分野	教授	久保田 正和
委員	療養生活支援看護学領域 急性期成人看護学分野	准教授	寺口 佐與子
委員	実践支援看護学領域 基礎看護学分野	准教授	川北 敬美
委員	学務部 看護学事務課	主任	武田 千賀
委員	学務部 看護学事務課	主任	増田 尚紀
委員	学務部 看護学事務課	事務員	長田 紗季
委員	博士後期課程修了生	大学院修了生	大橋 尚弘
委員	博士前期課程在学生	大学院生	古高 吉恵
委員	第 4 学年代表	学生	飯村 静葉
委員	第 2 学年代表	学生	佐野 花音

※任期は 1 年 再任を妨げない

※学生の任期は 1 年 毎年 4 月以降に選任する

資料 4 カリキュラム評価委員会会議開催状況

1. 2023 年 カリキュラム評価委員会（合計 5 回開催）

第 1 回カリキュラム評価委員会：2023 年 8 月 7 日

第 2 回カリキュラム評価委員会：2023 年 9 月 14 日

第 3 回カリキュラム評価委員会：2023 年 11 月 14 日

第 4 回カリキュラム評価委員会：2023 年 12 月 4 日

第 5 回カリキュラム評価委員会：2023 年 12 月 25 日

資料 5 看護学教育カリキュラム評価の結果

1-1) 看護学部看護学科のアセスメントプラン

機関レベルのアセスメントポリシーに基づいて以下の項目を点検・評価する。

	入学時	在学中	卒業時
課程レベル (学部レベル)	入学試験 入学時調査 入試制度評価	・修得単位数 ・GPA ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査) ・教員によるカリキュラム評価 ・進級率、休学率、退学率 ・保健師、助産師コース希望者数 ・外部試験結果(国家試験模試等) ・正課外活動ポートフォリオ ・入試制度別成績、態度	・卒業要件:修得単位数、卒業演習評価 ・資格取得:国家試験合格率 ・GPA ・休学率、退学率 ・就職率、進学率 ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査) ・卒業時到達目標の自己評価 ・正課外活動ポートフォリオ ・入試制度別成績、態度
科目レベル		・各科目評価(講義・演習・実習) ・実習ポートフォリオ ・授業評価(学生) ・授業改善報告書(教員) ・ピアレビュー報告書(授業見学)	・各科目成績(講義・演習・実習)

2022 年 4 月 1 日 現在

1-2)看護学部カリキュラム・アセスメント・チェックリスト(アセスメントプランに基づいてカリキュラムが機能しているか検証するもの)

〔AP:アドミッションポリシー(入学時)、CP:カリキュラムポリシー(在学中)、DP:ディプロマポリシー(卒業時)〕

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCA がなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCA がなされていない

(C の場合改善策など提示)

レベル	ポリシー 種類	指標	実施 時期	周期	対象 学年	調査内容等	手法等	結果の活用 方法	実施者	教 学 IR 提 供	評価 結果	委員 A	委員 B	委員 C	委員 D	委員 E
課程	AP	①入学試験	11-2月	毎年	1	入学者選抜基本方針 入学試験の志願者数と志願者倍率 入試区分による受験科目選択 入学試験の得点状況	システムデータ	各種入学試験・方法等の改善	入試委員会	無	A	A	A	A	A	A
		入学時調査	4・5月	毎年	1	新入生の出身校評定	出願書類(成績証明書)	各種入学試験・方法等の改善	入試委員会	無	B 活 用 方 法	B	B	B	B	B
		入試制度評価	4・5月	毎年	1-4年	ジェネリックスキルテスト(GPS-Academic) 入学試験別の入学後の成績(GPA) 繰上・追加合格者の入学後成績	システムデータ	各種入学試験・方法等の改善 入試方法別の選抜学生数の検討	入試委員会 カリキュラム委員会	有	A	A	A	A	A	A
	CP	修得単位数	3月	毎年	1-4	修得単位数	システムデータ	進級要件、実習要件、卒業要件を満たしているか。カリキュラムの検討、教育の質の改善	教育センター	有	A	A	A	A	A	A
		GPA	9・3月	毎年	1-4	GPAの学年別分布および平均の学年推移	システムデータ	カリキュラムの検討、教	教育センター	有	A	A	A	A	A	A

								育の質の改善、チューター指導								
		学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査)	11-12月	毎年	1-4	カリキュラム評価・学修行動・DP到達度(DPに基づいた看護実践能力到達度調査)	システムデータ	カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学修環境改善	学生生活支援センター・教育センター	有	A	A	A	A	A	A
		教員によるカリキュラム評価	2月	毎年	1-4	新カリキュラムに関してよかった点や改善を要する点について意見収集	議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善	カリキュラム委員会	無	A	A	A	A	A	A
		進級率、休学率、退学率	3月	毎年	1-4	進級率、休学率、退学率	システムデータ	カリキュラムの検討、教育の質の改善	教育センター	有	A	A	A	A	A	A
		保健師、助産師コース希望者数	3月	毎年	1-4	保健師、助産師コース希望者数、合格者数	議事録(非公開)	カリキュラムの検討、教育の質の改善	教育センター	無	A	A	A	A	A	A
		外部試験結果(国家試験模試等)	随時	毎年	1-4	ジェネリックスキルテスト TOEIC 国家試験模試	システムデータ	カリキュラムの検討、教育の質の改善、英語能力別クラス分け、国家試験対策	教育センター・国家試験委員会	一部有	A	A	A	A	A	A
		正課外活動ポートフォリオ	3月	毎年	1-4	正課外活動ポートフォリオ	システムデータ	修学指導	学生生活支援センター	無	B 活用方法	B	B	B	B	B
		入試制度別成績、態度	3月	毎年	1-4	入試制度別成績、進級率、休学率、退学率	システムデータ	入試制度検討、カリキュラムの検討、教育の質の改善	教育センター	有	A	A	A	A	A	A
	DP	卒業要件:修得単位数、卒業演習評価	1月	毎年	4	修得単位数 卒業演習評価	教育年報 教授会議録	卒業要件を満たしているか。	教育センター	有	A	A	A	A	A	A
		資格取得:国家試験合格率	3月	毎年	4	国家試験合格率推移	HP 教育年報	教育、および国試対策の改善	国試対策委員会	無	A	A	A	A	A	A
		GPA	10・1月	毎年	4	単年度GPAの分布と	教育年報	カリキュラム	カリキュ	有	A	A	A	A	A	A

						前年度との比較	報	の検討、教育の質の改善	ラム委員会							
		休学率、退学率	3月	毎年	4	休学率、退学率、学籍移動	教育年報	カリキュラムの検討、教育の質の改善、学生生活支援の評価・改善	教育センター 学生生活支援センター	有	A	A	A	A	A	A
		就職率、進学率	3月	毎年	4	就職率 進学率	システムデータ 教育年報 HP	就職支援の改善	就職支援委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査)	10・12月	毎年	4	カリキュラム評価 学修行動 DP到達度調査	システムデータ 教育年報	カリキュラムの検討、教育の質の改善、学生生活支援の改善	教育センター 学生生活支援センター カリキュラム委員会	有	A	A	A	A	A	A
		卒業時到達目標の自己評価	12・2月	毎年	1-4	卒業時到達目標の自己評価・ディプロマサブリメント	システムデータ 教育年報	カリキュラムの検討、教育の質の改善	カリキュラム委員会	有	A	A	A	A	A	A
		正課外活動ポートフォリオ	3月	毎年	4	正課外活動ポートフォリオ	システムデータ	学生生活支援の改善	学生生活支援センター	無	B 活用方法	B	B	B	B	B
		入試制度別成績、態度	5・8月	毎年	1-4	入試制度別成績 GPS-A	システムデータ	入試制度、入学前教育、教育の改善	入試委員会 カリキュラム委員会	有	A	A	A	A	A	A
科目	CP	各科目評価(講義・演習・実習)	各学期終了時	毎年	1-4年	各科目の成績評価	システムデータ	授業改善	各授業担当者 教育センター	有	A	A	A	A	A	A
		実習ポートフォリオ	実習前後に記載する。 1年間で複数の実習が	毎年	1-4	実習ポートフォリオ	システムデータ	教員・学生への公開 実習の個人評価	教育センター	無	A	A	A	A	A	A

			ある場合は、実習前は1階、実習後の振り返りは各実習ごとに行う。													
		実習・授業評価(学生)	各学期終了時	毎年	1-4年	実習・授業評価	システムデータ	教員・学生への公開 授業改善	教育センター	無	A	A	A	A	A	A
		授業改善報告書(教員)	8・3月	毎年	各科目責任者	授業(実習)改善報告書	システムデータ	学生への公開 授業改善	教育センター	無	A	A	A	A	A	A
		ピアレビュー報告書(授業見学)	通年	毎年	教員	「授業見学」FDシート年間授業見学実施数	システムデータ 議事録	授業改善	教育センター	無	A	A	A	A	A	A
		ティーチング・ポートフォリオ	8・3月	毎年	教員	ティーチング・ポートフォリオ	システムデータ	授業改善	教育センター	無	B 活用方法	B	B	B	B	B
	DP	各科目成績(講義・演習・実習)	各学期終了時	毎年	1-4年	各授業の成績評価(シラバスに記載した各授業のDPの達成状況)	システムデータ	授業改善	各授業担当者	無	A	A	A	A	A	A

2-1.)看護学研究科博士前期課程 アセスメントポリシー

	入学時	在学中	修了時
課程レベル (研究科レベル)	入学試験 入試制度評価	・修得単位数 ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・高度実践コース希望者数 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数(全体・領域) ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件:修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査 ・資格取得:高度実践看護師の教育課程 修了者、合格率
科目レベル		・成績評価 ・授業評価(学生)	・成績評価

2-2)看護学研究科前期課程カリキュラム・アセスメント・チェックリスト(アセスメントプランに基づいてカリキュラムが機能しているか検証するもの)

〔AP:アドミッションポリシー(入学時)、CP:カリキュラムポリシー(在学中)、DP:ディプロマポリシー(修了時)〕

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCA がなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCA がなされていない

(C の場合改善策など提示)

レベル	ポリシー 種類	指標	実施 時期	周期	対象 学年	調査内容等	手法等	結果の活用方法	実施者	教学 IR 提供	評価 結果	委員 A	委員 B	委員 C	委員 D	委員 E
課程	AP	入学試験	10 月	毎年	1	入学試験の志願者数と 志願者倍率、個別相談 会参加者数	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	受験生確保のため の入試個別相談会 の充実、本学卒業 生の大学院進学へ の促進、大学病院 の若年層への呼び かけ、入学試験・ 方法等の改善	大学院 委員会	有	A	A	A	A	A	A
		入試制度評価	10 月	毎年	1-2	受験方式選択別成績	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	受験方式選択制 導入に伴う経年的 評価の実施、入学 試験・方法等の改 善	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
	CP	修得単位数	3 月	毎年	1-2	修得単位数	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	履修方法による修 得単位数の確認、 評価	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学生調査(カリ キュラム評価・ 学修行動・DP 到達度調査・学 会発表数・論文 投稿数)	2 月	毎年	1-2	カリキュラム評価、学修 行動、DP到達度調査、 学会発表数、論文投稿 数、授業評価	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	回答率の上昇、カ リキュラムの検討、 教育の質の改善、 修学指導、学習環 境改善、学会への 参加、論文投稿の 促進	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A

		教員によるカリキュラム評価	3月	毎年	1-2	カリキュラムに関して、教員、外部委員、学生委員から意見を収集	大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	カリキュラム評価委員会	無	A	A	A	A	A	A
		休学率、退学率、在学年限延長率	3月	毎年	1-2	休学率、退学率、在学年限延長率	システムデータ	入学前の準備性の不足、学習に対する意識の向上、カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	大学院委員会	無	B退学者	B	B	B	B	B
		高度実践コース希望者数	3・6月	毎年	受験希望者	高度実践コース希望者数	大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	カリキュラムの検討	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学位論文進捗状況	4・10・2月	毎年	1-2	研究計画書、倫理申請書、修士論文	大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	グループ指導実施状況の確認と定期的な指導の継続徹底、研究計画書、論文内容の改善指針を与える	指導教員、大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学位論文審査	2月	毎年	2	修士学位論文	教育要項、大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	学位論文の公表方法の検討	主査、副査	無	A	A	A	A	A	A
		研究助成金の獲得状況	随時	毎年	1-2	研究助成金の獲得状況	大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	学生への周知徹底、助成金獲得に向けた支援、修学指導	大学院委員会	無	B応募件数の少なさ	B	B	B	B	B
		在籍学生数(全体・領域)	4月	毎年	1-2	在籍学生数(全体・領域)	システムデータ	入学定員枠の検討、医系教員の専門分野の設置、学生募集、学修指導の改善	大学院課	無	A	A	A	A	A	A
		在籍年数	4月	毎年	1-2	在籍年数	大学院委員会議事録、研究科教授会議事録	計画的な研究遂行と教育指導の実施、学生募集、学修指導の改善	大学院課	無	A	A	A	A	A	A

		入試制度別成績	10-12月	毎年	1-2	成績、在籍年数、修了との関連	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	受験方式別の得点率の評価、受験方式による入学後の成績推移との関連について検討、入試制度の点検	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
	DP	修了要件：修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験	1-3月	毎年	修了年次	修得単位数、修士学位論文、口頭試問	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	大学院員 会、主指導、主 副導、主副 査	無	A	A	A	A	A	A
		休学率、退学率、在学年限延長率	3月	毎年	修了年次	休学率、退学率、在学年限延長率	システムデータ	入学前の学習準備状況の確認、研究遂行状況の定期的評価、カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	大学院委員会	無	B 退学者	B	B	B	B	B
		就職率、進学率	1-3月	毎年	修了年次	就職先、進学先	システムデータ	学修指導の改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学生調査（カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数）	2月	毎年	修了年次	カリキュラム評価、学修行動、DP到達度調査、学会発表数、論文投稿数、授業評価	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	大学院委員会 大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		修了時調査	3月	毎年	修了年次	授業科目について、研究指導体制について、ディプロマポリシーについて、自己の成長について、	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、修学指導、学習環境改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		在籍年数	4月	毎年	修了年次	在籍年数	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	学生募集、学修指導の改善	大学院課	無	A	A	A	A	A	A
		入試制度別成績	10-12月	毎年	修了年次	成績、在籍年数、修了との関連	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	入試制度の点検	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A

							事 録									
		就職先調査	1-3 月	3 年 に 1 回	修 了 生 の 就 職 教 育 担 当 者	修了生の数、現在の職 位・役割等、組織への 貢献度、大学院修了者 への期待、今後の採用 方針、組織の支援体 制・制度等	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	評価に基づき、カリ キュラム改革を検討する	大 学 院 委 員 会	無	A	A	A	A	A	A
		資格取得：高度 実践看護師の 教育課程 修了 者、合格率	12 月	毎年	修 了 者	高度実践看護師資格 試験	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	カリキュラムの検 討、教育の質の改 善、修学指導、学 習環境改善	大 学 院 委 員 会	無	A	A	A	A	A	A
科目	CP	成績評価	2-3 月	毎年	1-2	各科目試験、全履修単 位数	システムデ ータ	成績評価の平準化 を検討、成績を基 に履修指導を行う	大 学 院 委 員 会	無	A	A	A	A	A	A
		授業評価(学生)	2 月	毎年	1-2	授業の出席率・積極 性、授業内容、良かっ た科目と良かった点、 改善すべき点	大 学 院 委 員 会 議 事 録、研究科 教 授 会 議 事 録	教員全体へのフィ ードバック、カリキュ ラムの検討、教育 の質の改善、修学 指導、学習環境改 善	大 学 院 委 員 会	無	A	A	A	A	A	A
	DP	成績評価	2-3 月	毎年	修 了 年 次	各科目試験、全履修単 位数	システムデ ータ	成績を基に履修指 導を行う	大 学 院 委 員 会	無	A	A	A	A	A	A

3-1) 看護学研究科博士後期課程 カリキュラム・アセスメント・チェックリスト

	入学時	在学中	修了時
課程レベル (研究科レベル)	入学試験 入試制度評価	・修得単位数 ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・教員によるカリキュラム評価 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・学位論文進捗状況 ・学位論文審査 ・研究助成金の獲得状況 ・在籍学生数(全体・領域) ・在籍年数 ・入試制度別成績	・修了要件: 修得単位数、研究指導を受け、学位論文提出、最終試験 ・休学率、退学率、在学年限延長率 ・就職率、進学率 ・学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数) ・修了時調査 ・在籍年数 ・入試制度別成績 ・就職先調査
科目レベル		・成績評価 ・授業評価(学生)	・成績評価

3-2)看護学研究科前期種カリキュラム・アセスメント・チェックリスト(アセスメントプランに基づいてカリキュラムが機能しているか検証するもの)

〔AP:アドミッションポリシー(入学時)、CP:カリキュラムポリシー(在学中)、DP:ディプロマポリシー(修了時)〕

評価	解釈
A…十分に整備されている	PDCA がなされている
B…概ね整備されている	一部実施に向けた検討がなされている
C…大幅な見直し、改善が必要	PDCA がなされていない

(C の場合改善策など提示)

レベル	ポリシー種類	指標	実施時期	周期	対象学年	調査内容等	手法等	結果の活用方法	実施者	教学IR提供	評価結果	委員A	委員B	委員C	委員D	委員E
課程	AP	入学試験	9月	毎年	1	入学者選抜基本方針 入学試験の志願者数と 志願者倍率	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	入学試験・ 方法等の 改善	大学院 委員会	有	A	A	A	A	A	A
		入試制度評価	1-3月	毎年	受験者	・試験結果の吟味	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	入試制度 の点検に 活用	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
	CP	修得単位数	3月	毎年	1-3	修得単位数	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	実習要件 や卒業要件を 満たしているか	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学生調査(カリ キュラム評価・ 学修行動・DP 到達度調査・ 学会発表数・ 論文投稿数)	2月	毎年	1-3	カリキュラム評価、学修 行動、DP到達度調査、 学会発表数、論文投稿 数、授業評価	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラ ムの検討、 教育の質 の改善、 修学指導、 学習環境改善	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
		教員によるカリ キュラム評価	3月	毎年	1-3	カリキュラムに関して、 教員、外部委員、学生 委員から意見を収集	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラ ムの検討、 教育の質 の改善、 修学指導、 学習環境改善	カリキ ュラム 評価委 員会	無	A	A	A	A	A	A
		休学率、退学 率、在学年限 延長率	3月	毎年	1-3	休学率、退学率、在学 年限延長率	システムデータ	カリキュラ ムの検討、 教育の質	大学院 委員会	無	B 退学 者	B	B	B	B	B

								の改善、 修学指導、 学習環境改善								
		学位論文進捗 状況	4・10・ 2月	毎年	1-3	研究計画書、倫理申請 書、博士学位論文	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	研究計画 書、論文 内容の改 善指針を 与える	指導教員、大 学院委員 会	無	A	A	A	A	A	A
		学位論文審査	2月	毎年	3	博士学位論文	教育要項、大学 院委員会議事 録、研究科教 授会議事録	質疑応答 終了後、 教授会で 判定会議 を行う	主査、 副査	無	A	A	A	A	A	A
		研究助成金の 獲得状況	随時	毎年	1-3	研究助成金の獲得状 況	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	修学指導	大学院 委員会	無	B 応募 件数 の少 なさ	B	B	B	B	B
		在籍学生数 (全体・領域)	4月	毎年	1-3	在籍学生数(全体・領 域)	システムデータ	学生募 集、学 修指 導の 改善	大学院 課	無	A	A	A	A	A	A
		在籍年数	4月	毎年	1-3	在籍年数	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	学生募 集、学 修指 導の 改善	大学院 課	無	A	A	A	A	A	A
		入試制度別成 績	10-12 月	毎年	1-3	成績、在籍年数、修了 との関連	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	入試制度 の点検	大学院 委員会	無	A	A	A	A	A	A
	DP	修了要件：修 得単位数、研 究指導を受け、学位論文 提出、最終試験	1-3 月	毎年	3	修得単位数、博士学位 論文、口頭試問	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	質疑応答 終了後、 教授会で 判定会議 を行う	大学院 委員会、主 指導、副 指導、主 査、副 査	無	A	A	A	A	A	A
		休学率、退学 率、在学年限 延長率	3月	毎年	1-3	休学率、退学率、在学 年限延長率	システムデータ	カリキュ ラムの検討、 教育の質 の改善、 修学指導、 学習	大学院 委員会	無	B 退学 者	B	B	B	B	B

								環境改善								
		就職率、進学率	1-3月	毎年	3	就職先、進学先	システムデータ	学修指導の改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数)	2月	毎年	1-3	カリキュラム評価、学修行動、DP到達度調査、学会発表数、論文投稿数、授業評価	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、 学修指導、学習 環境改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		修了時調査	3月	毎年	3	授業科目について、研究指導体制について、 ディプロマポリシーについて、自己の成長について、	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、 学修指導、学習 環境改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		在籍年数	4月	毎年	1-3	在籍年数	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	学生募集、学修指導の改善	大学院課	無	A	A	A	A	A	A
		入試制度別成績	10-12月	毎年	1-3	成績、在籍年数、修了との関連	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	入試制度の点検	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		就職先調査	1-3月	3年に1回	修了生の就職先教育担当者	修了生の数、現在の職位・役割等、組織への貢献度、大学院修了者への期待、今後の採用方針、組織の支援体制・制度等	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	評価に基づき、カリキュラム改革を検討する	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
科目	CP	成績評価	2-3月	毎年	1-3	各科目試験、全履修単位数	システムデータ	成績を基に履修指導を行う	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
		授業評価(学生)	2月	毎年	1-3	授業の出席率・積極性、授業内容、良かった科目と良かった点、改善すべき点	大学院委員会 議事録、研究科 教授会議事録	カリキュラムの検討、教育の質の改善、 学修指導、学習 環境改善	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A
	DP	成績評価	2-3月	毎年	1-3	各科目試験、全履修単位数	システムデータ	成績を基に履修指導を行う	大学院委員会	無	A	A	A	A	A	A

資料 6 2023 年度使用の資料一覧

1) 学部

ポリシーの 種類	評価の指標	根拠資料	資料の公開
AP	・入学者選抜基本方針 ・入学試験の志願者数と志願倍率	HP(アドミッションポリシー(入学者受入の方針)) https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/policy/admission_policy.html	○
		履修のてびき	○
		HP(大阪医科薬科大学 看護学部入学試験結果) https://www.ompu.ac.jp/admission/undergraduate/qt931k000000805t-att/qt931k0000009le6.pdf	○
		教育年報	○
	・入学時調査(新入生の出身校評定)	出願書類(成績証明書)	×
	・入試制度別の成績調査	教育年報	○
	・ジェネリックスキルテスト	年報	○
		教育年報	○
CP	・各科目評価	年報(看護学教育センター)	○
	・修得単位数	年報	○
		履修のてびき	○
		教育年報	○
	・ガイダンス(教育センター・学生生活支援センター)	新入生ガイダンススケジュール	×
		新2年生・3年生:履修ガイダンススケジュール	×
		新4年生:卒演オリエンテーション&履修ガイダンススケジュール	×

・チューター制度	大阪医科薬科大学看護学部チューター制度に関する指針	×
	年報	○
・看護学実習における COVID-19 対策	年報(看護学教育センター)	○
	年報(実習委員会)	○
	2022 年度 看護学実習における感染症の対応について(学生説明用)※ 格納場所:実習委員会→32.	×
・実習ポートフォリオ	年報(看護学教育センター)	○
・授業評価	年報(看護学教育センター)	○
	年報(看護学教育センター)	○
	HP(学生による授業評価アンケート ・実習評価・実習評価(3 年生)・授業 評価 https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/outcomes/of2vmg000000sq5z.html	○
・進級率, 休学率, 退学率	教育年報	○
	教授会議事録:公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)	×
・保健師, 助産師コース選抜	年報	○
	保健師国家試験受験資格希望者の選抜手順(教授会資料)	×
	助産師国家試験受験資格希望者の選抜手順(教授会資料)	×
・教員・学生によるカリキュラム評価	年報	○
	教育年報	○
	HP(カリキュラム(4 年間のカリキュラムの流れ)) https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/curriculum.html	○
	HP(大阪医科薬科大学看護学部カリキュラムツリー 入学生) https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/tpv6n40000000mg8-	○

		att/f2pjgc000000cqbz.pdf (カリキュラム ナンバリングコード一覧) https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/syllabus/f2pjgc000000cq76-att/qt931k00000080wa.pdf	
	・GPA(全体推移・単年 GPA・個別 GPA)	HP(看護学部 GPA 実施について)(看護学部学年ごとの単年 GPA 分布) https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/outcomes/gpa2022_.html	○
		年報	○
		教育年報	○
	・授業改善報告書	年報	○
	・ピアレビュー報告書	年報	○
	・FD 実施状況	年報	○
	・実習連絡協議会の報告資料	年報	○
	・国際交流活動	年報	○
	・多職種連携教育	年報(教育センター)	○
		合同カンファレンスアンケート(慢性)	○
		多職種連携カンファ評価(急性)・急性多職種カンファレンスアンケート	○
		多職種連携カンファレンス最終評価(母性)	○
		多職種連携臨床カンファレンス(精神)	○
DP	・卒業演習評価	年報	○
		年報	○
	・GPA(累積 GPA・単年 GPA)	教育年報 看護学部	○
		HP(看護学部 GPA 実施について)(看護学部学年ごとの単年 GPA 分布)	○
	・休学率, 退学率	教育年報 看護学部	○

		年報	○
		HP(看護学部看護学科の各種数値データ(在籍者数等))	○
		教授会議事録:公開資料なし(学内教職員のみ閲覧可能)	×
	・卒業時到達目標の自己評価	年報	○
	・資格取得:国試合格率	HP(看護師・保健師・助産師国家試験合格率推移)	○
		HP(看護師・保健師・助産師国家試験)(国家試験対策支援)	○
		年報	○
	・進学率・就職率	HP(就職支援)	○
		年報	○
	・学生調査	HP(学生調査)	○
		年報	○
		学生調査報告書	○
	・正課外活動ポートフォリオ	年報	○

2) 研究科

ポリシーの 種類	評価の指標	根拠資料	資料の公開
AP	入学試験の志願者数・入学者数	研究科教授会資料、大学院委員会会議資料 HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	受験方式別の結果	研究科教授会資料、大学院委員会会議資料	×
CP	修得単位数	研究科教授会資料、大学院委員会会議資料 教育要項	○
	学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数)	学生調査 DP到達度修了生アンケート 研究業績調査一覧	×
	教員によるカリキュラム評価	教員に対するカリキュラム評価アンケート	×
	休学率、退学率、在学年限延長率	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	高度実践コース希望者数	研究科教授会資料、大学院委員会会議資料	×
	学位論文進捗状況	研究科教授会議事録、大学院委員会議事録	×
	学位論文審査	教育要項	○
		学位論文審査結果報告書	×
	研究助成金の獲得状況	研究科教授会資料、大学院委員会資料、研究業績調査一覧	×
	在学学生数	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	在籍年数	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	入試制度別成績	研究科教授会資料、大学院委員会資料	×
	成績評価	研究科教授会議事録、大学院委員会議事録	×
	授業評価	授業評価アンケート結果報告書	×

DP	修得単位数	研究科教授会資料、大学院委員会資料	×
	学位論文評価	研究科教授会資料、大学院委員会資料	×
	休学率、退学率、在学年限延長率	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	就職率、進学率	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	学生調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数)	学生調査 研究業績調査一覧	×
	修了時調査(カリキュラム評価・学修行動・DP到達度調査・学会発表数・論文投稿数)	修了生アンケート 研究業績調査一覧	×
	在籍年数	研究科教授会資料、大学院委員会資料	×
	入試制度別評価	入学試験要項	○
	就職先調査	就職先アンケート結果	×
	専門看護師の教育課程修了者、合格率	HP(https://www.ompu.ac.jp/admission/graduate/nursing/data.html)	○
	成績評価	研究科教授会議事録、大学院委員会議事録	×

大阪医科薬科大学看護学教育カリキュラム評価
2023 年度 報告書

発 行 日 2024 年 3 月 30 日

発 行 大阪医科薬科大学看護学部

〒569-0095 大阪府高槻市八丁西町 7-6

著・編集 カリキュラム評価委員会

池西 悦子 佐々木 綾子 久保田 正和 寺口 佐與子 川北 敬美

武田 千賀 増田 尚紀 長田 紗季